

れいわ ねんど だい かい しずおかしたぶん かきょうせいきょうぎかい ぎじろく
令和5年度 第4回 静岡市多文化共生協議会 議事録

- 1 日 時 2024年2月15日（木） 19:00～20:30
- 2 場 所 しずおかしやくしょ しずおかしやくしょ かい ちやきつと
静岡市役所 静岡庁舎3階 茶木魚
- 3 出席者 たぶん かきょうせいきょうぎかい いん 13めい
多文化共生協議会委員13名
いわむら ふみの おがわ たけし じん しやおじえ、
磐村 文乃、エフィ グスティ ワフユニ、小川 毅、金 笑杰、
つのがえ ひろき てるや なかしま かずひこ のだ としろう はなざわ
角替 弘規、照屋 アンヘラ、中島 一彦、野田 敏郎、花沢 ウライヤ、
ひだ すすむ まつなが ひであき やました
肥田 進、松永 秀昭、山下 メリンダ、ヤマモト ルシア エミコ、
もちづきかんこうりゆうぶん かきよくちやう おかむらかんこうりゆうぶんかきよくちやう じむきよく
望月観光交流文化局長、岡村観光交流文化局次長、事務局
- 4 傍聴者 なし
- 5 次第
1 開 会
2 議 事 しずおかしたぶん かきょうせいすいしんけいかく しさく きやういく まかい げ
静岡市多文化共生推進計画「施策2 教育の機会や場づくり」
(1) だい かいきやうぎかい にほんごきやういく げんば しきつ しよかん
第3回協議会にて日本語教育の現場を視察しての所感
(2) がいこく つながる こども む しきつほうこく
「外国につながる子ども」向けプレスクール視察報告
(3) にほんごきやういく いけんこうかん
日本語教育にかかる意見交換
3 その他
4 閉 会

じむきょく やまなし
事務局（山梨）：

ただ今から第4回静岡市多文化共生協議会を開催します。会議に先立ちまして、中村委員より、欠席のご連絡をいただいております。本日は第3回協議会の「生活者としての外国人に」に対する日本語教育の現場視察を踏まえての「日本語教育の現状や課題」などについて、意見交換をお願いしたいと思っております。なお、本日の会議は記録のため録音させていただきます。それでは議事に移りますので、野田会長、議事の進行をよろしくお願ひします。

の だかいちよう
野田会長：

本日も皆さまからのご意見をたくさん伺いたいと思っております。それでは多文化共生推進計画の施策2、「教育の機会や場作り」についての審議を行います。第3回の協議会では、3班にわかれて日本語教育の現場を視察いたしました。皆さまそれぞれ視察をされて、色々な感想やご意見をお持ちになったかと思っておりますので、視察先ごとに順番に伺っていきたく思います。まず、12月13日にNPO法人開発教育ファンクラブ様の静岡自主夜間教室を視察された小川委員いかがでしょうか。

おがわいいん
小川委員：

今回初めて自主夜間教室を見学させていただきました。学びたい方が集まっている教室なので、とても雰囲気良く、当日はクリスマスリース作りもあり楽しい雰囲気でした。外国籍の方2人に対して日本人が1人つく、2対1の形でテーブルがいくつもセットされて、各テーブルで興味あるテーマについて、日本語でのコミュニケーションを楽しむという形で進められていたことが良いと思ひました。

スタッフの方は基本的にはボランティアの方が多いと思うのですが、ボランティアの方の善意に甘えている部分もあると思うので、これから長く続けていくためには市の施策な

どでサポートすることも必要だと感じました。と言いますのも、現在、中学校の部活動の地域への移行を進めているのですが、お金の面など、今まで学校の先生方の善意によって成り立っていたことを実感しており、夜間教室を長続きさせていくためには市のサポートが必要であると思いました。

野田会長：

続きまして、照屋委員いかがでしょうか。

照屋委員：

30年前に日本に来た時に私は外国人として日本語の授業を受けたことがあります。1人の先生に対して生徒は30人で、先生は前で教科書を読むだけ、という単調な授業でした。それに比べこの自主夜間教室はすごく楽しく、リースなどの物作りでコミュニケーションをとりながら「結ぶ」とか、「赤」とか日本語を教えていたことに驚きました。形式も日本人1人に対して外国人2人と距離が近くてすごくいいと思いました。教科書だけでなく会話を通じて日本語を学んでいることがとても良いと思います。もっと外国人に来てほしいです。

野田会長：

続きまして花沢副会長お願いします。

花沢副会長：

私も夜間教室があることを今回初めて知りました。一生懸命生徒さんがひらがなやカタカナを勉強していました。先生はボランティアの方々だと思いますが、小さいホワイトボードやスーパーのチラシを使いながら説明をしたりと、先生によってやり方が違い工夫をしていて面白いと感じました。特にスーパーのチラシを使うことは、日常生活の役に立

つよいアイデアだと思(おも)いました。

野(の)田(だ)会(かい)長(ちよう)：

つづきまして山(や)下(した)委(い)員(いん)いかがでしょうか。

山(や)下(した)委(い)員(いん)：

夜(や)間(かん)教(きょう)室(しつ)を視(し)察(さつ)して、ま(ま)ず(ず)ス(ス)タ(タ)フ(フ)とボ(ボ)ラ(ラ)ン(ン)テ(テ)ィ(ィ)ア(ア)の先(せん)生(せい)がと(と)て(て)も(も)温(あ)た(た)く(く)フ(フ)レ(レ)ン(ン)ド(ド)リ(リ)一(い)に、生(せい)徒(と)や見(けん)学(がく)者(しゃ)を(を)迎(むか)え入(い)れ(れ)て(て)い(い)る(る)こ(こ)と(と)が(が)、す(す)ご(ご)く(く)良(よ)か(か)っ(っ)た(た)で(で)す(す)。教(きょう)室(しつ)で(で)は(は)生(せい)徒(と)た(た)ち(ち)は(は)日(に)本(ほん)語(ご)だ(だ)け(け)で(で)な(な)く(く)、日(に)本(ほん)の(の)文(ぶん)化(か)や日(に)常(じょう)生(せい)活(かつ)に(に)つ(つ)い(い)て(て)も(も)学(ま)な(な)ぶ(ぶ)こ(こ)と(と)が(が)で(で)き(き)て(て)い(い)ま(ま)し(し)た(た)。ま(ま)た(た)、生(せい)徒(と)の(の)日(に)本(ほん)語(ご)の(の)能(のう)力(りき)が(が)様(よう)々(ざ)な(な)の(の)で(で)、グ(グ)ル(ル)ー(ー)プ(プ)に(に)分(わ)け(け)て(て)い(い)る(る)こ(こ)と(と)も(も)良(よ)い(い)と(と)思(おも)い(い)ま(ま)し(し)た(た)。

た(た)だ(だ)、予(よ)算(ざん)が(が)必(ひ)要(よう)な(な)活(かつ)動(どう)も(も)行(おこな)っ(っ)て(て)い(い)る(る)、こ(こ)の(の)時(とき)は(は)リ(リ)ー(ー)ス(ス)作(つく)り(り)を(を)し(し)て(て)い(い)た(た)の(の)で(で)す(す)が(が)、そ(そ)う(う)し(し)た(た)活(かつ)動(どう)資(し)金(きん)を(を)ど(どこ)か(か)ら(ら)調(ちよう)達(たつ)し(し)て(て)い(い)る(る)の(の)か(か)疑(ぎ)問(もん)で(で)し(し)た(た)。ま(ま)た(た)、日(に)本(ほん)語(ご)を(を)教(おし)え(え)る(る)に(に)は(は)、日(に)本(ほん)語(ご)を(を)教(おし)え(え)る(る)ス(スキ)ル(ル)が(が)必(ひ)要(よう)だ(だ)と(と)思(おも)い(い)ま(ま)す(す)が(が)、ボ(ボ)ラ(ラ)ン(ン)テ(テ)ィ(ィ)ア(ア)の(の)先(せん)生(せい)た(た)ち(ち)は(は)、例(たと)え(え)ば(ば)教(きょう)育(いく)セ(セ)ミ(ミ)ナ(ナ)ー(ー)と(と)か(か)、日(に)本(ほん)語(ご)教(きょう)育(いく)の(の)訓(くん)練(れん)を(を)受(う)け(け)て(て)い(い)る(る)の(の)か(か)も(も)知(し)り(り)た(た)い(い)で(で)す(す)。あ(あ)と(と)自(じ)主(しゅ)夜(や)間(かん)教(きょう)室(しつ)の(の)開(かい)催(さい)は(は)月(つき)に(に)1(いち)、2(に)回(かい)だ(だ)と(と)思(おも)い(い)ま(ま)す(す)が(が)、日(に)本(ほん)語(ご)を(を)習(なら)う(う)に(に)は(は)す(す)こ(こ)し(し)少(すく)な(な)い(い)か(か)な(な)と(と)思(おも)い(い)ま(ま)し(し)た(た)。

野(の)田(だ)会(かい)長(ちよう)：

山(や)下(した)委(い)員(いん)か(か)ら(ら)の(の)質(しつ)問(もん)に(に)つ(つ)き(き)ま(ま)し(し)て(て)、肥(ひ)田(だ)委(い)員(いん)か(か)ら(ら)発(はつ)言(げん)を(を)お(お)願(ねが)い(い)で(で)き(き)ま(ま)す(す)で(で)し(し)ょう(ょう)か(か)。

肥(ひ)田(だ)委(い)員(いん)：

資(し)金(きん)は(は)「NHK歳(さい)末(まつ)た(た)す(す)け(け)あ(あ)い(い)」か(か)ら(ら)も(も)ら(ら)っ(っ)て(て)い(い)ま(ま)す(す)。そ(そ)れ(れ)か(か)ら(ら)ボ(ボ)ラ(ラ)ン(ン)テ(テ)ィ(ィ)ア(ア)の(の)先(せん)生(せい)た(た)ち(ち)に(に)つ(つ)い(い)て(て)は(は)、日(に)本(ほん)語(ご)教(きょう)師(し)の(の)免(めん)許(きょ)を(を)持(も)っ(っ)て(て)い(い)る(る)人(ひと)も(も)い(い)ま(ま)す(す)け(け)れ(れ)ど(ど)も(も)基(き)本(ほん)的(てき)に(に)は(は)素(す)人(じん)で(で)す(す)。月(つき)に(に)1(いち)回(かい)運(うん)営(えい)委(い)員(いん)会(かい)を(を)や(や)っ(っ)て(て)お(お)り(り)、で(で)き(き)れ(れ)ば(ば)そ(そ)こ(こ)で(で)研(けん)修(しゅう)を(を)や(や)り(り)た(た)い(い)の(の)で(で)す(す)が(が)、な(な)か(か)な(な)か(か)出(で)来(き)て(て)い(い)ま(ま)せ(せ)ん(ん)。そ(そ)の(の)た(た)め(め)先(せん)生(せい)各(かく)自(じ)で(で)準(じゆん)備(び)を(を)し(し)て(て)日(に)本(ほん)語(ご)を(を)教(おし)え(え)て(て)い(い)る(る)状(じよう)況(きやう)で(で)す(す)。教(きょう)室(しつ)の(の)開(かい)催(さい)回(かい)数(すう)に(に)つ(つ)い(い)て(て)は(は)、毎(まい)週(しゅう)と(と)か(か)で(で)す(す)と(と)運(うん)営(えい)側(がわ)の(の)負(ふ)担(たん)が(が)結(けつ)構(こう)出(で)て(て)き(き)ま(ま)す(す)。自(じ)主(しゅ)夜(や)間(かん)教(きょう)室(しつ)は(は)清(しみず)水(すい)

にもありますので、静岡・清水の両方の教室に通ってもらえれば、月4回程度習うことも可能です。

野田会長：

ヤマモト委員、いかがでしょうか。

ヤマモト委員：

実は自主夜間教室に参加するのは今回が初めてではないです。初期の段階で何回か関わらせていただきまして、初期の段階と今とで少し形が変わったという印象を受けました。初期の段階では先生方が教科書を手にとって教えていたのを記憶していますが、今回は先生1人に対して生徒は1、2人で、教材も人によっては全然使わないということでした。2回・3回目の時には外国籍だけではなく、不登校になった中学生とかにも対象が広がり、今回もそうした子がいたと思いますが、全てのニーズに応えるのはなかなか難しいのではないかなと思います。その辺りを団体としてどのように対応しているのかなと思いました。

1対1での対応というのが一つの答えだと思いますが、おそらく人によって求めるものが違って、きっちりと勉強したい子もいれば、日常生活に必要な日本語を学びたい子もいると思いますし、その辺りの対応の仕方が結構難しいと思ひまして、どう対応されているのか少し疑問に思ったところです。

もう一つは、例えば成人した方が体系的に日本語を学びたい場合には、お金を出せば色々な日本語学校とかで学べると思ひますが、自主夜間教室で今以上のことを学びたい時には1回で1対1の教材なしで、どこまで応えられるのかなと思います。生徒のニーズに合っていない場合には、おそらく来る方も毎回変わってくるのではないかなと思います。また、ボランティアやスタッフの方々の確保も難しいのではないかなと思いました。その辺り

もどのように対応されているのかを教えてくださいたいと思います。

野田会長：

肥田委員お願いします。

肥田委員：

それぞれのニーズに合わせてどこまで対応していけるかという部分は難しいところだと感じています。例えば外国人で、日本語能力試験のN2を取りたい人は、問題集を持って来るので、出来る限り教えますが、やはり日本語教師の資格を持っていないと、詳細までは説明ができません。また、中にはただ居場所として、みんなと話をするのが楽しくて来ている人もいますし、不登校の子で高校進学を希望する子には、面接の練習などもしています。あと、目的がはっきりしていない人に対して、学び学びと言いついでしまい、次から来なくなったケースもあつたりしました。

初期の段階と比べて人数がすごく多くなっており、すべてのニーズに応えることはなかなか難しい状況にはなっています。

野田会長：

ありがとうございます。最後になりますが、私もこの夜間教室の見学をさせていただきました。先ほど肥田委員がおっしゃっていた、本当にここに話すためだけに来ている方もいまして、それがこの夜間教室のありようを物語っているかと思われました。また、外国籍に限らず、本当にこの場を求めている人がたくさんいることを実感しました。肥田委員と角替委員をはじめ他のボランティアの方たちも、本当に献身的で一生懸命向き合っており、ここに来る人たちはそういう皆さんの前向きな姿を見たり、他に勉強している人たちの姿を見ることで、前向きな気持ちになっているのではないのかと感じ素敵に思いました。

続きまして、12月15日、国際ことば学院の短期日本語コースを見学された方に、ご意見を伺いたいと思います。中島委員からお願いします。

中島委員：

国際ことば学院さんの授業はSAMEの日本語教室とやり方が全く違う感じでした。

国際ことば学院さんでは日本語の文法の授業をしていて、おそらく働く人のための日本語であり、日本語能力試験とかステップアップをするための教室だというふうな理解をして見えていました。一方でSAMEの方は文化庁が提唱する生活CAN-DOを元にやっています、切符の買い方ですとか、日々の生活に必要な日本語を少しずつ覚えてもらい、生活の質を上げることを目的としています。

こうした生活の質を上げていくための日本語教室とステップアップのための日本語教室とは別物であり、一つのところワンストップでは出来ないのではないのかと思っております。これは次第の3番目のテーマにもなっていますが、日本語教育の環境をトータルとしてどう作っていくか、多様なニーズに応える場を静岡市全体としてどう作っていくかが重要であると思っております。

日本語教育に関するマーケットとターゲットをきちんと考えながら、どういうポートフォリオで、誰がどの部分を担当するのかということ、ちゃんと話合っていくことがこの会議の目的だと思っておりますし、そのために3つのタイプの違う視察先を見てきたんだと思っております。これが後半の議論に繋がっていくと思いますが、各々お金やスペースの問題などがあり、供給できるサービスの限界があるので、ターゲットを絞っていかなければ合理的はないと思っております。そうしますと、一つ一つの教室ではなくトータルとして、学校教育も含めてどういう環境を作っていくのかということが、多文化共生という大きな視点の中で日本語教育を考えているこの協議会の意義だと思っております。そういう意味で違う教室を見させてもらい、すごく良かったと思っております。

の だかいちよう
野田会長：

まつながいじん
松永委員いかがでしょうか。

まつながいじん
松永委員：

わたし はじめに こくさい がくいん さんの じゆぎよう はいけん を 拝見 させていただきました。とうじつ は、ちゆうごくけい や とうなん 東南アジア系、けい おうべいけい せいと 欧米系の 生徒 さんが 7～8 人 位 いたかと思 いますが、授 業 を 受ける 姿勢 や 隣 の 生徒 さん と の せつ かた 接し方 など、それぞれ 個性 があり 面白い と 感じました。また、先生 が 授 業 の 中 で 図書館 と 図書室 の 違い について 説明 する に あたり、いろいろ かくど から 違っ た 表現 を 使 っ て、いっしょうけんめい おし 一生懸命 教 えて いる 姿 が 印象 的 でした。あと、生徒 さんが 何 の 目的 で 日本語 を 学 ぶ 中 の の か など、いけんこうかん 意見 交 換 を する 時間 が 持 っ て 良 かった かな と 思 います。

の だかいちよう
野田会長：

こんかい は じかん の かんけいじょう 一部 を 切り 取 っ た 形 で の ご見学 と な っ て しま っ て、も っ と じっくり と 見 っ て も ら える 時間 が あ れ ば よ っ た だ ず です。あ り が と う ご ざ い ま っ た。

では 続 け ま っ て、12月 17日 静岡 市 国 際 交 流 協 会 の 日 本 語 教 室 を 見 学 さ れ た 方 か ら の 感想 を い た だ き たい と 思 います。磐 村 委 員 か ら お 願 い し ま す。

い わ む ら い い ん
磐村委員：

とうじつ の 内 容 は、日 本 語 サポ ー タ ー さ ん た ち が 企 画 し た 年 賀 状 作 り で し た。ま さ に こ の 時 期 な ら で は の 企 画 で、年 賀 状 の 文 化 や 書 き 方 の 説 明 が あ り、そ の 後 小 グル ー プ に 分 か れ て、日 本 語 サポ ー タ ー さ ん た ち の アドバ イ ス を も と に、年 賀 状 を 作 る と い う 形 だ っ た の で す が、授 業 中 の や り と り を 聞 い て いる と、非 常 に 和 や か で、本 当 に 聞 き たい こ と を 聞 け る 場 である と い う こ と を 感 じ ま っ た。

そ の 後 全 体 で 振 り 返 り が あ り、作 成 し た 年 賀 状 を 投 函 す る と い う こ と で、人 間 関 係 も そ

ここで繋がっていきますし、ここでは交流をしながら日本文化に触れて、そして生活に必要な日本語を学ぶという位置づけでの会話や読み書きなど、本当にトータルに学べる良い場所だと思いました。いわゆる対話交流型の日本語教室として、とても重要な役割を果たしていると感じます。今後より多くのサポーターさんと学習者さんが集まり、こうした機会がもっと増えていくと良いと思っています。また、今メタバースという言葉も出てきていますが、教室に来られない人たちのために、メタバース等を活用した場が作れないかとも感じました。

の だかいちよう
野田会長：

つづ
続きまして、エフィ委員いかがでしょうか。

エフィ委員：

ねんがじょうづく
年賀状作りというテーマだったのですが、まず一番印象的だったのは、先生たちが年賀状に貼るシールを準備してくれていたことです。みんなそのシールを年賀状に貼ることを楽しみにしていて、先生がそこまで万全に考えてくれていることに驚きましたし嬉しかったです。

いっぼう
その一方で、1時間半という時間のなかで、年賀状を書くのが早い人もいれば、遅い人もいて、早く出来た人が終わってからもう何もしないで携帯を見たりしていたことが少し残念で、時間ももったいなかったです。なので、宿題として事前に誰に何を伝えたいのかを考えといてもらえば、もっと時間を有効的に使えたかなと思います。

あともう一つ思ったことは、私達外国人には年賀状の文化がないので、喪中などの年賀状に関係する知識もあわせて教えてもらえると良いと思いました。実際に、毎年賀状が来ていた人から今年は来なかったのも、相手に嫌われたのではないかという相談を受けたことがあります。結果として相手が喪中だったため、年賀状が来なかったことが

わ
分かったのですが、^{おお}多くの^{がいこくじん}外国人は^{もちゅう}喪中^しを知りません。そうした^{ミスコミュニケーション}ミスコミュニケーション
を防ぐ^{ふせ}ためにも、^{プラスアルファ}プラスアルファの^{ちしき}知識も^{おし}教えてもらえるとありがたい^{おも}と思います。

の ^{だかいちよう}
野田会長：

^{つづ}
続きまして^{つのがえいいん}角替委員、^{ねが}よろしく^{ねが}お願いします。

かどがえいいん
角替委員：

SAME さんの^{きょうしつ}教室^みを見させて^{いただきました}いただきました。すごく^{せいと}生徒^{たの}さんが^{ねんがじよう}楽しそうに^{ねんがじよう}年賀状^をを
^{さくせい}作成^{しんせん}していることが^{しんせん}新鮮^{かた}で、^{ボランティア}ボランティアの方も^{いっしょうけんめいおし}すごく一生懸命^{おし}教えていたことがいいな
と思^{おも}いました。あと^{ねんがじよう}年賀状^{たし}は^{にほん}確かに^{ぶんか}日本の文化^{だいじ}として大事^{おも}だと思^{おも}いますが、もしかしたら
^{せいかつしや}生活者の^{してん}視点^いから^{たと}言うと、^{あてな}例えば^{ふうとう}はがきの宛名^{ふとう}や封筒、あるいは^{たつきゅうびん}宅急便^{でんびよう}の伝票^かの書き方^{かた}
というところと^{むす}結びつくと、^{すこ}もっといいのかな^{かん}ということも少し^{かん}感じました。

^{こんかいけんがく}
今回^{じつ}見学^{わたし}したときに、^{じしゅ}実は^{やかんきょうしつ}私が^きやっている^こしずおか^こ自主^こ夜間^こ教室^こにも^こ来^こている^こ子^このお
^{にい}兄^{さんか}ちゃんが^ま参加^ましており、^まここにも^ま来^まている^まことを^ま初めて^ま知^まりました。^まそれで、^まSAME^まにも
^ま来^まて^まこ^まう^まこ^まう^まの^ま勉^ま強^まを^まして^まいる^まことが^ま分^まか^まつ^まて^まいたら、^まもしかしたら^まこ^まち^まら^まの^ま自^ま主^ま夜^ま間^ま
^ま教室^までは^ま違^まう^まこ^まう^まが^までき^また^まか^まもし^まれ^まない^まとも^ま思^まいました。^ま実^まは^ま教^ま育^まを^まする、^ま場^ま所^まを^ま提^ま供^ま
^まする^ま側^まには、^ま誰^まが^まど^まこ^まで^ま学^ま習^まして^まいる^まのか^まと^まいう、^ま情^ま報^まが^まない^まん^まです^まね。^まそ^まう^ま考^まえ^まる
と、^ま学^ま習^まして^まいる^ま人^まが^まど^まう^まこ^まう^まの^ま学^まび^まを^まして^まいる^まのか^まと^まいう、^ま学^ま習^まを^ま提^ま供^まする^ま側^まの^まネッ^まト
^まワ^まーク^まがあ^まつ^まても^まいい^まのか^まな^まと^まいう^ま気^まは^まし^まま^ました。^まそ^まして^ま色^ま々^まな^ま学^ま習^まの^ま場^まが^ま出^ま来^まて^まき^また^まの
であれば、^まそ^まこ^まを^ま横^まに^ま繋^まげ^まる^ま動^まき^まがあ^まつ^まても^まいい^まのか^まな^まと^まいう^まこ^まう^まを^ま思^まいました。

の ^{だかいちよう}
野田会長：

^{じつさい}
実^ま際^まそ^まう^まこ^まう^まの^ま横^まの^ま繋^まが^まり^まは^まど^まの^まよ^まう^まな^ま感^まじ^まで^まし^まょう^まか。^ま例^まえ^まは^ま夜^ま間^ま教^ま室^まと^まSAME^まの^ま教^ま室^ま
との^ま横^まの^ま繋^まが^まり^まは^まご^まざ^まい^まま^ます^まか。

なかじまいいん
中島委員：

自主夜間教室さんは入っていないんですけども、SAMEの方で市内各地の日本語を勉強できる場所のWEBサイトを作りまして、もうすぐ公開になります。場所や曜日で選ぶとか、お金がかかる、かからないとかで選べるものを用意しましたので、このシステムがハブになっていけばいいなと思っています。また、そういう繋ぎ役はできる限り SAME でやらせていただきたいと思います。

の だかいちよう
野田会長：

では最後になりますが、肥田委員からお願いします。

ひ だいいん
肥田委員：

横の協力関係ですが、自主夜間教室は市の市民自治推進課のパイロット事業で資金をもらってスタートし、その時のカウンターパートが国際交流課と SAME でしたので比較的協力関係にはあります。

うちの自主夜間教室と、SAMEの教室でやっていることは結構似ている印象を持ちました。ただ違うのは、SAMEの方は一斉指導をする場面がありまして、自主夜間教室にはない点です。そうした一斉指導の場について、我々も考える必要があると思っています。

それから、私は週に1回オンラインで授業をやっています、そこで感じるのが、コンビニとか外で働いている人は、日本語がどんどん上手になっていくということです。

逆に話す機会がないとなかなか進歩しません。仕事とかで日本語を使う機会があるといいのですが、ない場合には他のところに求めるしかありません。そうした仕事以外のサードプレイスで日本語を使う機会をいかに設けてあげられるかが、これから我々の社会にとってすごく大事なのではないのかと思います。

野田会長：

3ヶ所の視察の感想をそれぞれ述べていただきましたが、同じ生活者向けの日本語教室といっても、やはりそれぞれ特徴や違いがあると思いました。

先ほど最後に肥田委員がおっしゃっていた、日本語をどこか外で使う機会というのは、外国語の習得にとっては非常に大切なことです。それがアルバイト先でも、どこでもいと思えます。私達は日本語学校をやっている側ですが、常に生徒が社会に出るための準備ですとか、もう実際に社会に片足突っ込んでいようようなことを意識した日本語の教育が必要なのではないのかと、聞いていて感じました。

続きまして、第2回の協議会で特別支援教育センターから紹介がありましたプレスクールが開催されています。その様子について事務局から報告をお願いします。

事務局（山内）：

外国に繋がる子供向けプレスクールの視察に行ってきました。このプレスクールは入学直後の学校生活に必要な日本語の基礎や、小学校生活をすぐにスタートできるようにすることを目的に行われています。全3回で参加人数は、年長児が32名、保護者が53名の85人程度になります。内容は子ども向けの小学校の授業体験と保護者向けの説明会との2部構成での開催でした。特別支援教育センターとしては、今回でプレスクールを実施するのがまだ2回目ということで、これからさらに内容のブラッシュアップをしていきたいということと、運営体制が県立大学や常葉大学の学生などのボランティアが中心に成り立っている中で、体制の強化もしていきたいとのことでした。

野田会長：

それでは、引き続き日本語教育に関する意見交換をしていきたいと思っておりますが、今度は

生活者としての外国人に対する日本語教育の課題という、本当に身近なテーマで、ご自身の経験や、こういうことで困ったという話をお聞きしたいとおもっております。花沢副会長は日本に来て生活をしているわけですが、何かこうした日本語の学習あったらいいとか、何か困った経験とかがありましたら教えていただけますでしょうか。

花沢副会長：

私が困ったことは、引っ越しの時の手続きが分からなかったことです。区役所に2週間以内に転入届を出すことを知らず、区役所へ聞きに行っても、あまり細かく教えてもらえず手続きに困りました。あとは、以前もお話した、子どもの保育園の探し方や申請の方法が分からず、保育園を探すにあたっては、文化の違い（ピアスの可否）により、入園が出来る保育園を見つけるのに苦労しました。

野田会長：

最初の問題は、市役所での届け出とかいわゆる手続きに関する日本語の問題なのかなとおもいました。確かに日本語学校とかの授業では文法積み上げ式の部分があり、そうした手続きとか、普段の生活を楽しむ、といったカリキュラムになっていない実情もあつたりします。そうした生活者のニーズに応えきれない教育体制も課題なのかもしれないですね。他にご意見いかがでしょうか。

エフィ委員：

私は現地の大学の日本語学科で4年間日本語を学びました。4年間勉強して文法はわかるようになったのですが、会話は先生との週に1回しかなくて、それも聞くだけで話す機会がありませんでした。そのため日本人と会っても日本語を話す自信がなくて逃げたのですが、それが悔しくて日本語が上手くなるためには日本に行くしかないと思っ

て、一生懸命勉強して奨学金をもらって日本に来ました。そこから私が思ったことが、いくら勉強しても実際に使わないとあまり日本語を覚えられないということです。これからも外国人が日本語を勉強するにあたり、先生や友達とかと日本語で会話することが大事だと感じています。

あと、インドネシア人で見ると、静岡県内では学生と技能実習生が多いです。学生としては、例えば入学の手続きとか小学校に入る子どもの手続きの文書がすべて漢字で大変とのことなので、文書を簡単にしたものとよいと思います。あと、技能実習生からは年末調整についてよく聞かれます。

野田会長：

金委員、どうでしょうか。ご意見をいただければと思います

金委員：

今日の感想として、私は留学生ですので、生活者としての外国人として本格的に日本社会で生活していないということを感じがしました。仮に今後日本に残って生活していくと決めた場合に何が必要で、何が足りていないのかを考えながら聞いていました。

外国に繋がる子ども向けのプレスクールには参加してみたいです。私は大学から日本に来たので、高校までの教育制度や学校制度について全然わからないため、将来結婚して子どもができたなら、こうした支援が必要になるだろうと思いました。外国人にとって、日本の教育制度や学校制度は難しいので、その対応の一つとして留学生に日本の教育制度や学校制度を知ってもらうのもいいのではないかと思います。また、このプレスクールの運営にあたって県大や常葉大学の日本語ボランティアの話がありましたが、もし留学生のボランティアを募集していたら、私も参加してみたいですし、周りにも参加したいと思っている人もいるかもしれないと思いました。

3か所の視察の話聞いて、市内の色々な所に教育の場、外国人の居場所があること

が分かりました。外国人には色々なコミュニティが存在していますが、例えば親が外国人労働者で子どもが日本語支援が必要な場合に、どこに行けばいいのかわからない外国人もいます。そういう人やコミュニティに対しては、どうアプローチして、どういう日本語教育が有効になるのかなと思いました。私たち留学生に何ができると考えた時に、留学生もいきなり日本に来ているなどの共通点があるので、身近なロールモデルとして子どもたちと対話ができたら、その子どもたちの役に立てるのではないのかと思いました。

野田会長：

留学生からの視点ということで、とてもユニークな視点だと思いました。

それでは山下委員をお願いします。

山下委員：

私の場合は日本に来て日本人の方と結婚したのですが、日本に来た当初はほとんど日本語が話せませんでした。私の最初の日本語の先生は夫で、1年間くらいは毎日日記を書くことで日本語の勉強をしていました。それから子どもが生まれてから1～2年後の子育てがちょっと楽になったときに、国際交流協会ができて、ビギナーとアドバンスの日本語クラスにも参加しました。その後YWCAに入って勉強してから社会に出ましたが、社会に出ると知り合いも増えて色々なことを学べるので、そのなかで日本語も上達していた感じでした。

野田会長：

ありがとうございました。ここからは生活者としての外国人に対する日本語教育に限らず、静岡市全般の日本語教育についてご意見などありましたらお願いします。

中島委員：

SAME日本語教室も自主夜間教室も、日本語を勉強したい人で溢れていて、キャパオーバーで受け入れられない状況になっています。生活者としての日本語はとても大切ですが、行政にはもう少し政策的に日本語教育を考えていただきたいと思います。例えば技能実習生が日本語ができないと相談に来たときどうすべきでしょうか。制度やキャパが決まっている中で、そこに行政がコストをかけてやるべきか意見がわかれると思います。

中学から高校への進学はギャップがあり、そのまま高校に行けないというのはその通りで、こういう人達への対応がハイリスクアプローチになります。僕はここにはコストをかけるべきだと思っていて、彼らが高校に行き、その夢を実現するチャンスを得るために日本語を勉強する機会がしっかりと用意されるべきだと思っています。税金も時間も人も限られているなかで、しっかりマーケットを見極めて、どこに日本語教育の資源を投入するのかを行政としてしっかり整理して政策としてやってほしいと思っています。

野田会長：

続いて肥田委員お願いします。

肥田委員：

私は公立の夜間中学校ができないかという話を教育委員会に行っています。文科省では都道府県や政令指定都市への設置を促進しており、今静岡県では磐田と三島にありますが、静岡市にはありません。周りに17歳で日本に来た日本語が全然わからない子がいたのですが、教育委員会に相談をしても、高校生の年齢だから試験を受けて入ってくださいという話になりますが、日本語がわからないので試験を受けるというレベルにはないんです。静岡県の公立の夜間中学の入学条件は、外国人の場合には、日本語能力に關係なく、とにかく勉強したい人であれば受け入れようという方向になってきています。そうした夜間中学校に入学して3年間で色々なことを学びながら、日本語を勉強、実践

すれば、その後高校に進学することにもつながっていくと思います。そのため公立の夜間教室・夜間中学が、どうしても必要になってくるというのが私の見解になります。

それから、今オンラインで3人のバングラデシュの方に日本語を教えています。妊娠や出産をしているため、それに関する行政の手続きとか何か困ったことがあれば言っておいでと言っているのですがあまり来ません。夫が日本語を話せるので何とかなっているのかもしれませんが。ただ、意外と必要な行政手続き自体を知らなくて、アプローチして来ていない可能性もありまして、そういう人がたくさんいないか心配しています。

それから先日Zoomで南米の会議に出た時に、言語の概念について慶応義塾大学の先生がこういう話をしていました。例えばウサギは耳が長くてぴよんぴよん跳ねるものという概念は、たくさんの種類のウサギを見て比較した上で総合的に作りあげられるものなので、誰に対しても客観的に通用する概念となります。バイリンガルになれないダブルリミテッドの人は、そういう客観的概念を作りあげるだけの体験が非常に少ないため、客観的な概念を形成することが難しくなるということです。そのため相手方が認識している概念との違いにより話が通じなくなることがすごく心配です。

野田会長：

最後に角替委員お願いします。

角替委員：

生活者としての外国人に対する日本語教育ということですが、やはり成人の労働者とくにティーンエージャーを含めた学齢期にある子どもたちの生活とでは違うと思いますし、そこは厳格に分けて考える必要があると思います。

例えばこの前、中学生の学習支援で分数の計算を教えていた時に、分数の計算方法はわかるけれども、分子や分母という言葉が分からない子がいて、計算方法と同時にそ

ういう言葉も教えてあげる必要があるということをおもいました。あるいは高校受験のために、日米修好通商条約という条約の名前を覚えなさいといけなさいと言ったときに、なんでアメリカを「米」と書くのかという話になり、そうした言葉の意味も教えていかないと、高校受験に対応できないという現実もあると思います。

そこは週何回かの日本語支援では限界がありますので、学校で対応できないかということとは常々おもっています。そういう意味では子供たちの進路形成とか、将来のアイデンティティ形成に言語がかかわってくるので、そうした部分に力を入れていただけるとありがたいです。

野田会長：

色々な日本語教育の分野がありまして、留学・就労・生活、そして就学があります。つまり子どもから高校生ぐらいまでの年齢を対象とした日本語教育ということで就学の分野がありますが、これは政府の方でまだカリキュラムがまとまっていないような状況でして、それなりの問題の大きさや難しさを秘めているのではないかとおもっています。それでは進行を事務局にお返しします。

事務局（山梨）：

ありがとうございました。本年度議論いただきました内容につきましては、事務局でまとめまして、今回の議事録をご確認いただくタイミングにあわせてメールで送付する予定です。また、来年度の協議会は6月25日火曜日を予定しております。最後に閉会にあたり、静岡市観光交流文化局長の望月よりご挨拶を申し上げます。

望月観光交流文化局長：

昨年、多文化共生のまちの実現に向けて計画を作りましたが、本日もみなさんからのご

意見^{いけん}をいただいて、現場^{げんば}の声^{こえ}が反映^{はんえい}されている計画^{けいかく}なのかということをもう一度^{いちど}考え^{かんが}なければならぬと思^{おも}っております。多文化^{たぶんか}共生^{ききょうせい}推進^{すいしん}計画^{けいかく}は、市民^{しみん}が交流^{こうりゅう}、協働^{きょうどう}して、誰^{だれ}もが住^すみやすいまちをつくることを大きな目標^{もくひょう}としています。我々^{われわれ}ももっと戦略^{せんりやく}を練^ねつて、生活^{せいかつ}されているみなさんのニーズに沿^そった施策^{しきく}を打^うち出^ださなければと改^{あらた}めて感^{かん}じました。今年^{ことねん}度は本日^{ほんじつ}が最後^{さいご}となりますが、4回^{かい}の会議^{かいぎ}のまとめをしながら、今後^{こんご}に繋^{つな}げていければと思^{おも}っています。本日^{ほんじつ}は貴重^{きちょう}なご意見^{いけん}をありがとうございました。

事務局^{じむきょく}（山梨^{やまなし}）：

以上^{いじょう}で第4回^{だい}静岡市^{かいしずおかし}多文化^{たぶんか}共生^{ききょうせい}協議^{ぎぎ}会^{かい}を終^{しゅうりょう}了^{りょう}します。

以上^{いじょう}

会議録^{かいぎろく}署^{しょ}名^{めい}人^{にん}

会^{かい}長^{ちやう} 野^の田^だ 敏^と郎^{らう}